

## 令和3年度 浜田市総合教育会議議事録

日時 : 令和3年6月3日(木) 13:30~15:23

場所 : 庁議室

構成員 : 久保田市長 砂川副市長

岡田教育長 宇津委員 金本委員 花田委員 杉野本委員

事務局 河上教育部長 邊教育部参事 草刈教育総務課長

山口学校教育課長 永田学校教育課副参事

### 議事

- 1 市長あいさつ
- 2 協議事項
- 3 その他

#### 1 市長あいさつ

河上部長

定刻になりましたので、ただいまより令和3年度第1回浜田市総合教育会議を開催する。

開催に当たりまして、久保田市長からご挨拶をお願いします。

久保田市長

令和3年度第1回浜田市総合教育会議に、お忙しい中ご参加いただきありがとうございます。

昨年度はコロナ禍ということもあり、開催を見送ったという経緯がある。

本年度については、新型コロナウイルスの感染は引続き広がっている中ではあるが、この4月から新たに教育長も就任したので、今日は感染対策もしながら開催していきたいと思う。

今日は、教育振興計画を策定しなければならないのでそのお話、それから教育の魅力化ということで、市内の高校と一緒にやって取り組んでいることがある。その話をさせていただき、意見交換をしたいと思いますので、よろしく願いしたい。

河上部長

ありがとうございました。

本日の会議は公開となっている。現時点で傍聴者の方が1名おられる。

この会議は、概ねではあるが、約2時間、3時半を終了の予定としているので、ご協力よろしく願いしたい。

なお、この会議については、市長が招集をして進行するという事になっているので、以後の事項については、市長の方で進行

をお願いします。

## 2 協議事項

久保田市長

それでは、最初に1番目のテーマである、教育振興計画についてである。

これについて、事務局から説明していただき、その後具体的に、今後特に力を入れるべき事業やテーマ等について議論させていただければと思う。

なお、説明をなるべく短く10分程度でしていただき、その後質疑の時間を取りたいと思う。質疑の時間を30分から40分くらい取りたいと思うので、よろしくお願いします。

それでは事務局から説明をお願いします。

草刈課長

教育総務課の草刈です。

教育振興計画の策定について、私から説明させていただきます。資料を用いて説明する。資料1をご覧ください。

令和3年度は、令和4年度から令和7年度までの第2次浜田市総合振興計画の後期計画を策定する年度であり、総合振興計画の実施計画である浜田市教育振興計画も同じく策定年度に当たる。

資料を1枚めくっていただいたところに、現在の教育振興計画の抜粋が入っている。2ページをご覧ください。

こちらの図にある様に、総合振興計画の施策の大綱が真ん中にあるが、こちらが教育大綱の施策の5つの柱になっている。

また、総合振興計画の主要施策が、同じく教育大綱の主要施策になっている。教育振興計画の主な事業が、教育振興計画の具体的な取組に当たるとい様なかたちで、この2つの計画について、教育振興計画それから教育大綱、それから総合振興計画が重なる部分が多くなっており、連携して策定する必要がある。

最初のスケジュールのところに戻っていただきたい。この様なことから、総合振興計画の上の表2行目、総合振興計画の公募委員、特記事項のところでは3名の方を想定しているが、こちらの方が、教育振興計画の審議会委員も兼ねるとい様なかたちを想定している。

それから4行目のところ、まず総合振興計画の中間報告の内容と十分すり合わせて、教育振興計画の骨子を9月の上旬から中旬の時点で作成する予定としている。

その後、4回程度の審議会、それからパブリックコメントの募

集などを経て、2月の中旬から下旬に審議会で、教育振興計画を取りまとめて答申をいただき、2月の下旬に教育委員会で審議・承認していただく予定というスケジュールとなっている。

次の教育振興計画の内容について、抜粋資料で説明したいと思います。まず6ページをご覧ください。教育振興計画の施策体系が図示してある。

まず位置付けだが、その下にある様に、浜田市市民憲章があり、総合振興計画、そして教育大綱があり、教育振興計画という様な位置付けになっている。その教育振興計画だが、キャリア教育とふるさと教育が体现される基本理念、「夢を持ち、郷土を愛する人を育みます」という基本理念があり、その下の施策の柱に繋がるというかたちになっている。

この5本の施策の柱だが、1 学校教育の充実、2 家庭教育支援の推進、3 社会教育の推進、4 生涯スポーツの振興、5 歴史・文化の伝承と創造という5つの柱については、今回の計画についても変えずに、策定を予定しているところである。

その下に主要施策、具体的な取組というかたちになっている。3ページに戻っていただき、真ん中あたりに5つの視点が示してある。

まず1点目に、「自分も役立つ人間だ」という自己有用感という視点。それから、2点目に、礼儀・作法・あいさつ・しぐさなど、下にあるようなふるまいの向上といった視点。3点目に、教科が目指すものとしての「個」と「公共」の両面。4点目に、教育効果を高めるため、生まれてから幼児教育、学校教育、それから社会教育へと繋ぐ、縦の繋がり。それと、家庭・学校・地域社会の横の連携。5点目に、変わってはならない「不易」なもの、それから ICT などの変化や多様化に対応していくための、「流行の面」という視点を示してあるが、これに基づき、策定をして参りたいと考えている。

7ページ目をご覧ください。7ページから11ページにおいては、7ページの頭にある様に、主要施策と具体的な取組一覧となっている。

先ほども申し上げた様に、施策の柱や主要事業については総合振興計画と重なる部分がある。今後、総合振興計画審議会で委員に議論される部分である。

また今回は後期計画であり、先ほど説明した様に、施策の柱な

どは変更しない予定であることなどから、本日の会議においては、この表の右側の具体的な取組の階層のところ、どこに力を入れるか、どこを拡充すべきかなどに焦点を絞って、議論をしていたらと考えている。

説明は以上である。よろしくお願ひしたい。

久保田市長

ただいま説明があつたが、この5月中旬から素案を作成して、この後審議会委員を選定して議論に入つていただく。その様な予定をしている。今日は本年度最初ということで、各委員に事前に資料をお送りしていると思うので、恐縮ではあるが宇津委員から順に、この計画策定に当たつてご意見なりあればお聞かせ願ひたいと思う。

その前に事務局に少し確認だが、基本的にはこの計画の位置付けというのは6ページにある市民憲章からずっと体系があり、その下に浜田市教育振興計画がある。

その5つの施策の柱というのは、これは基本的には変えないつもりだということだが、変えることもできるのか。例えば、今後のいろんな審議会の議論の中で。

草刈課長

浜田市総合振興計画の中で議論の対象にはなると思う。その中で絶対変えられないというわけではないとは思ふが、審議会の中での議論を通じて、続けるか続けられないかという様なことになるかと思う。

ただ、担当部局から聞いているのは、今回はその柱のことについては変えない方向で調整を図りたいというふうには聞いている。

久保田市長

それから、3ページ目に5つの視点と書いてあるが、これを織り込んだ色々な施策を考えてみましょうというような考え方でよろしいか。

草刈課長

はい。

久保田市長

それからもう一つ。ここで今日、各委員さんから出た意見は、今回のこの計画策定にあつて、どのように取り込まれるのか、位置付けられるのか、そこら辺はどうか。

草刈課長

今回出た教育振興計画のところのご意見について、スケジュールのところであるが、9月上旬から中旬にかけて、骨子の作成の時期のところまでに、担当部局で、それぞれ元データを作る際に、当然今回出た意見を反映させるようなかたちで願ひをする。そこで、骨子のところに織り込むようなかたちである。

それから、10月以降の審議会のところでも、総合教育会議の中ではそういう意見が出ましたというところでも紹介をしたうえで、議論の一つの参考という様なかたちで織り込んでいける方向で諮っていきたいと考えている。

久保田市長

それから今回の審議会等で議論される中で、本日の会議の中で出た意見は織り込まれる予定である、そういう位置付けということである。そういうことで今ちょっと確認をさせていただいたが、それを踏まえて、恐縮ですが宇津委員から、どの観点からでも結構なので、ご意見があればお聞きしたいと思う。

宇津委員

5つの視点が示されているが、その第1点目のところで、こんなふうに考えたらいいなという気持ちが、まず最初に浮かんだ。

それは、ただ単に自分も役に立つ人間だということだけではなく、併せてかけがえのない存在なんだ、という思いをそこに込めて協議されると全体に繋がってくるのではないかという気がする。もっと自分を大事にする。人様も大事にする。そういうことがベースにある必要があるという気がする。

それから、私が見たのは、個別具体的な取組という欄を見させていただき、ここの部分をこんなふうに変えたらどうだろうかとか、あるいは、今話題になっているこの問題をここに入れたらどうだろうかということに気が付いたので、それを順次、どういう順番でやられるか分からないが、その都度、お話をさせていただいたらと思う。

久保田市長  
草刈課長

今のお話のとおり、今日は1個1個やっていく予定か。

1個1個やる予定ではないので、今ご意見をいただければ幸いである。

久保田市長

大変たくさんある。あるいはポイントだけ言っていただき、あとで文章とかメモで出していただいても結構である。

宇津委員

社会教育の部分で、公民館に関わる部分がある。これは皆さんご存知の様に、今年度から大きく変動した。その辺りの記述も工夫がいるだろうし、あるいは、教育委員会サイドの内容と、地域政策部が掲げる内容との整合性という、この辺りも非常に関わってくるのではないかなという気がする。内部で十分協議が必要だと思う。

あと一つ大きく関わってくると思われるのは、文化財のところである。歴史・文化の伝承と創造ということで、ご案内のとおり、歴史文化保存展示施設、これももうすでに建設計画等々が進んで

いるところなので、その活用も含めて、ここの文化財というところの中に盛り込まれる必要があるかなという気がする。

それから、次の2番目の話題に出てくる、学校教育の中に位置付けられると思うが、教育の魅力化推進事業について。これもやはり、個別具体的なところで記される必要があるのではないかという気がする。

久保田市長

はい。お聞きするだけでいいか。何か1個1個コメントは別にいいか。

草刈課長

はい。

久保田市長

ありがとうございます。それでは、金本委員お願いします。

金本委員

私は常々、幼児教育についての記述の部分が弱いかなと思っている。国も幼児教育にだいぶ力を入れている。

少子化というと、子どもの人数が減れば減るほど、小さい頃からの教育というのはすごく大事になってくるのではないかと思う。

他の方からも時々、浜田市の幼児教育はどうなっているのか、というような話を聞く。元気な浜田を作るのはやはり、これからの子どもたちなので、幼児教育から力を入れているというふうに示さないと、浜田市の未来の担い手を育てていくという方向にならないのではないかと常々思っている。

先ほど5本の施策の柱は動かないという話だったが、I「学校教育の充実」の前に、幼児・学校教育の充実という様な文言を入れて、力を入れますという方向に持って行っていただけたらなと思っている。以上である。

久保田市長

幼児教育については、先般議会からも幼児教育について力を入れていこうと提言があったところである。

ともすれば、幼児教育というのが幼稚園をどうするかという議論になるので、幼児教育をもっと主点でやるべきだという、そういう様な提言があったところである。それから2点目の、体系は変わらないということではあるが、ご意見ということで承る。

続いて花田委員お願いします。

花田委員

改めて見させていただき、家庭教育支援の推進を2番目に入れるということ、審議会の委員をした時に強く訴えたが、子どもたちや保護者と関わっていて、本当に何よりこれがベースだということを感じる。

それで見ると、ここはとても重要だが、具体的取組がすべ

てこの中に含むというかたちになっていれば、それはそうだが、現実的にとても家庭教育支援というところが、まだまだ力がかけられていないという実感がある。具体的な策を深めていきたいなという思いがある。

他の具体的取組に混ざっているのかもしれないが、学校教育の充実のところ、例えば7ページの(3)食育とある。よく言われている食育は、子どもたちがこれから生きていくために、どうするか。子どもたちに直接的な食育は、学校給食を通じたり、学校などで割と持たれている様な気がするが、その子どもたちが帰る家庭がもうすでに、冷凍食品ばかりとかいうことがある。

具体的に活動で調理したりするが、生肉を初めて見て、これは何の肉かと聞く子どもと出会うと愕然とする。

これは昔都会にあった様なことが、ほんの隣の、浜田でも隣の家であるんだということ、特に最近実感するので、これはピンチではないかなと本当に思っている。

学校教育の中に食育と入っているのは、子どもが対象のものなのかなと思うが、家庭教育の支援のあたりまでは、8ページの親学プログラムの中に入っているかもしれないが、親対象の支援は、具体的なところがあるのではないかなと感じているところである。その辺りも議論に加えていただければと思う。

久保田市長

今食育の話が出たが、議会でも、浜田は水産都市なんだから、子どもたちにもっとお魚のことを知ってほしいと言われる。

先ほどこのお肉は何のお肉かという話があったが、浜田の子どもたちがこの魚は何の魚か、魚の名前も分からないという中で、来年、1年後になるが、子どもたちの、何かお魚検定試験みたいな、遊び感覚でお魚のことを知ってもらおうということを考えている。

今までの食育は、例えば浜田のお魚を知ろうとか、浜田で取れる野菜を知ろうという話ではなくて、地産地消の、もっと食べましようとか、食べ方みたいな、その様な話を中心の様な感じがする。

私は、先ほどの議会で話もあるし、私自身も、浜田の子どもたちにはせめて旬のお魚くらい見てすぐに何か分かる様にしてほしいと思う。

その辺花田委員はどう思われるか。

花田委員

魚自体を捌けるお母さんが何人いるのかなというところであ

久保田市長

る。家に出てこない、食卓に。

捌けるというところまでいくと難しいが、せめてこの魚は何の魚か、アジとサバの区別がちゃんとつくかとか。

テレビ番組の秘密のケンミン SHOW で、青森の子どもはりんごを紅玉とか種類を、小学生がほとんどみんな正解する。たまたまテレビに映った子だけかもしれないが。やはり青森の子どもは、そのりんごの名前くらい全部分かる、という番組をやっている、そう考えれば浜田の子どもは魚の名前が分かるのかなと思った。

すごく種類があるから全部覚えるのは無理でも、せめて 10 か 20 か分からないが、それくらい分かってもいいだろうなと思った。そういうことも何かやってほしいなと思う。

ただ、それを教育の取組の中に入れるのかどうかは分からないが。

岡田教育長

ふるさと教育に入ると思う。

久保田市長

あるいは野山の野草とか、野山に行けばある、これは何という草だとか、そういうこともやってほしいなという気がする。

岡田教育長

そういうふるさと教育を学校現場だけでなく、家庭や地域でやっていくということが大事になっていくと思う。

久保田市長

そういうことが身近に、一度ふるさと教育というと、すごい教育みたいと思うが、もっと具体的に身近なところから、せめてお魚の名前くらい覚えようとか、野山に咲いている草木の名前は、浜田にあるものくらい覚えようとか、杉と檜の違いくらいは分かる様にしようとか、そういうこともふるさと教育かなという気もするがどうか。

金本委員

昨日豊ヶ浦に 2 年生と一緒にいった。アクアスの方やボランティアの方と。子どもたちがすごく生き生きとして、生き物を網ですくったりしていたが、そういう場面設定をしないと、子どもたちは海とか山に行くことは本当にほとんどないので、親世代が連れて行くっていう場面が本当に少ないと思う。

久保田市長

今日の午前中に、毎年恒例だが、水産協会とか JF とヒラメの稚魚を放流した。私が市長になり、市長の仕事は色々あるが、一番楽しい仕事がそれである。

子どもと一緒にバケツを持って、その中のヒラメの稚魚に「大きくなったら帰っておいで」と皆で言って、放流する。そうすると子どもたちがものすごく喜ぶ。

初めて生きている魚に触ったとか言って、はしゃいでやっ

る。

金本委員が言われる様に、やはり、意外と触れ合うとか、体験する機会がない様である。そういうこともふるさと教育の一環だろうと思う。

浜田は海もあり、山もある。それぞれの地域によって、ここは海に近いことをやろうとか、山に近いことをやろうとかいうことがあるかもしれないが、そういうことをもっとやってほしいという気もする。

他にもあるかもしれないが、続けて杉野本委員お願いします。

杉野本です。よろしくお願ひしたい。

特に学校教育の充実というところで、思うところがある。

今、学力向上推進室が室長を中心に、いわゆる施策だけではなく、具体的な学校での指導の方向性みたいなものを、具体的に出しておられるので、浜田市の授業づくり、子どもの声で作る授業というかたちでやっておられる。浜田市の授業づくりで、ある程度これをやったらいいなということが見えてきて、すごく、この関係の方々の意見を交換し合う。同じ共通の内容の中で話しやすい部分があるのではないかと思ひ、充実してきたなというのを大変うれしく思っている。

特に学校教育充実の(1)の④学力向上総合対策事業で、ピンポイントの話になるが、スーパーティーチャーの師範授業による授業力向上研修をやっておられる。

私が現場にいる頃からとてもいいなと思ひ、良い授業を見られる機会というのはなかなか、子どもから離れて授業を離れて、研究会に出るということは難しい現実の中で、来ていただいて、それも出やすい長期休業中にされるのは良いことだと思ひました。

教材のとらえ方はもちろんだが、若い先生にとっては、授業のイメージを持つ、あるいは教師の一つ一つの仕草とか、子どもへの言葉がけ、反応に対する態度とか、ふざける子への対応の仕方とか、そういったものを、すべて若い先生にも良いお手本になり、参考になるものだと思ひます。

指導的な面でもいいなと思ひるので、ぜひ授業力向上につながる研修を継続していただきたいと思ひます。

また、どこまでいけるか分からないが、教科によっては市教研に教科部会があると思ひますが、教育委員会からも、かなりの額、助

成があったと思う。そういったあたりともタイアップして、重点的な教科についてはそういった部分を、よりその教科の得意な先生をどんどん増やすという意味で、教育委員会と連携するという手があるのかなと思った。

それからもう一つ、⑩のところだが、学力調査をやっている。

昨年はなかったが今年度は行われたということであるが、今の、国はどちらかというと、教師の指導力の方に学力調査結果を活用してきている。その指導を高めるためにここのポイントを大事にしましょうという、いわゆるどの学校でも通用するその活用の仕方を指導の方に生かしているわけですが、それが本来の目的だと思う。

浜田市なら、それをどう活用するかになった時に、例えば数年続けて、なかなか県平均よりも低いところにあるということは、その指導力だけじゃない部分での、何かあるんじゃないかという気がする。そうすると、そこに何かあるかちょっと分析して、子どもの学習意欲的な部分なのか、環境的な部分なのか、学習環境的なものなのか、あるいは生徒指導的人間関係的な部分なのか、地域との協力体制的な部分なのか、学校規模による教員の多忙感なのか、色々その理由があるのではないかと思う。

地域あるいは学校の実態、課題に応じた、何か支援ができるものなら、具体的にいうと、必要とする人材を派遣する。これは⑨のところでは学校支援員配置事業とあるが、一番助かるのは人がいるということ。

少しでも厳しい、中々成果が表れてこない学校への取組として、何かそこで、よし、応援が来たから一つ頑張ってみるかという意欲につながるものがあれば良いなという気がする。

あるいは予算を重点配分してみる。いわゆる、児童数によって比例配分するだけではなく、学力の部分で、何か力を付けるために、余分をちょっとあげるから何とかしてみないかという様な、成果が出ない学校への元気が出る様な取組が、県ではできない部分で市だからこそできる部分があると良いなという気がする。

どこまで可能かお金がかかる分なので難しいとは思いますが。

2つ目の話の学力向上に関してだが、私が市長になって、毎月ロードマップをやりながら、学力向上についてはずっとこれまでである。結果については、学力調査とかで結果の数字は見えていると思うが。じゃあ、何で県より下回っているのか、なぜそうなの

久保田市長

かという分析をして、その原因が分からないとその対策も打てないわけである。分析をして、じゃあどうすればいいのか。色々なところに原因があると思う。

その対策に対してどういう手を打つか、その辺りは、今学力は各家庭の保護者でも共通におそらく、やって欲しいことの一つだと思うが、これまでなぜこの地の子どもの学力が、他に比べて低いのか、そういう分析を今までやったことがあったか。

河上部長

基本的には毎年点数で、県とのプラスマイナスを見ているが、学力向上推進室で、例えば国語なら読む力がないのか、書く力がないのか、それぞれもう少し細かい分析をされている。

その上で、浜田市の子どもが今どこに弱点があるかということ进行分析されている。ただそれが、すぐ翌年から上がるかということと難しいと思うが、基本的にはやはり、浜田市の子どもの特性ということの分析をされている。

久保田市長

その分析と実際に対策で現場でされているところ、ご家庭でされているところが連動していない様な感じがする。

例えば読む力が弱い。国語力だけではなく、その結果算数の記述式にも影響があるとか。これはいつも指摘される。

その読む力を、向上するにはどうすればいいのか。読書します、作文しましょう、ということももっと徹底的にやるとか、毎週1冊は本を読もうとか、朝発表しましょうとか。

そういう具体に見える化できる様な、具対策として行っているのかどうか。分析だけで終わっている様な、読む力が弱いですね、それが問題ですね、とか言っているだけの様な感じがする。その様なことはないか。

河上部長

調べ学習をしたり、色々なことを取組まれている。

特に旭中学校がモデルでやっていたが、開府400年の時の作文は、旭中の生徒は入選が結構多かった。

やはり自分で調べたり、自分の思いを人に伝えるということができるようになって初めて、作文が評価されているのかなという様なことがあったので、これを今どんどん広げている。

実際に数字が追いついていないということがあるが、現場も含めてそういう取組をされているという認識をしている。

久保田市長

今のことについて、他の委員方はどうか。

杉野本委員から学力が他に比べて低いことの分析をして、対策をとるという様なご指摘かと思うが。

<p>宇津委員</p>	<p>河上部長が旭中学校でやっているとか言われたが、もし旭中学校がやっていることが良いことであれば、他の小学校にも広げないといけない。その辺について、委員方はどうか。</p> <p>やはり課題が見つかったら、そのことに対する対策は、徹底するということが大事だと思う。中途半端にやって、次へという動きがあるのではないかという気がする。</p> <p>だから、自分の学校はここを重点的に徹底してやるという、強い信念が欲しいなと思う。そこにいくまでに手を引いてしまう様なことがあるのではないかと思う。頑固なところがあっていいのだと思う。</p>
<p>久保田市長</p>	<p>浜田市役所並びに教育委員会の限界みたいなところがあり、教育の現場は、学校の先生と子どもたち、及び家庭で形成されている。だから、市役所や教育委員会がこうだと言っても、先生たちに実際に取り組んでいただくのはなかなか難しい。</p> <p>だから一緒になってやろうよって言ってやらないといけないが、宇津委員が言われる様に、もっと徹底的に。このことについて他の委員方はどうか。</p>
<p>花田委員</p>	<p>学校は昔勤めていた時代と、今保護者として、子どもが帰ってきて、持って帰ってきたものを見ているときに、すごく感じたことが一つある。作文をすごく書かなくなったということを感じる。</p> <p>昔は、何かと行事をしたら、それはどうだったかという振り返りをしたり、作文をしたりしていた。作文用紙に、作文をすごく書いていた。</p> <p>だけど、今は何かワークシートみたいなもので、すごく簡素化されていて、よかったこと、一言書いて終わる。その文章の構成だとか、こんなことが心に残ったといったことから書いていって、こんなふうになんか訴える力の文章をとるか、なんかそういう構成力みたいなものはどこで培われるのかなということは、我が子を見ていて、すごくない。</p> <p>昔はこれでもかと、本当に作文を書いていた。今は本当に書いていないなと感じたところである。</p>
<p>金本委員</p>	<p>書く力、自分の思ったことを言葉で伝える力が弱く、子どもたちが接しているのを見ると、自分の気持ちとかが伝わっていないことが多くて喧嘩になったり、違う思いをしたりっていう場面が本当に多くある。</p>

杉野本委員

さっきの学力が、地域が問題なのか、家庭が問題なのか、ということがあるが、本当に学校に来ているだけみたいな子とか、病んでいるお母さんとか家庭とかが最近すごく多いなということをつくづく感じる。学力以前の問題もあるし、グレーゾーンの子どもも結構いるので、そのことを、なおざりにしてもいけない。

それから、結構学力的に上の子も、現状より伸ばしてやるという方向も大切になってくるのではないかと思う。

私が一番言いたかったのは、先生方も、学力調査もかなりもう何年も、10年続けている中で、なかなかその結果が、多少上がり下がりする学校もあれば、ずっと低迷している学校もあると思う。指導だけの問題ではないというところである。

例えば経済的な部分や、なかなか子どもを小さい頃から見ることができないとか、そういう子が多い地域であれば、例えば放課後児童クラブに支援員の方も入れるが、この地域は宿題をちゃんと見る人を1人増やしてみようとか、なかなかガチャガチャしてルールが守られない子が多いなということになると、遊びの時間にしっかりと見守る大人を配置するとか。放課後なり児童クラブなり、あるいは昼休みに、何かそういう思い切ったことができないか。

この⑫にも、特色ある学校づくりの推進とあるが、これはすごく現場では嬉しい。学力向上に使いたい、あるいは、体験活動に使える。色々なところでこれは使える。かなり学校の裁量が大きいです。

この辺りは充実させてもらおうと、そこにより強化して、弱点なり課題を強化するには、とてもいい取組だと思う。場合によっては弱いところは額を上げるとか。そういった何か、低いというのは、学校から言えば、助けてという悲鳴を上げているのではないか。

それに応えるには、やはり、きちんとした教育委員会で何かできることがあれば、そこで応援する、応援してもらっているから何とか頑張れるという部分が、保護者にも伝えたらそれじゃあ保護者も頑張ろうかというようになってくれば、相乗効果としてよいのかなと思う。なかなか実現は難しいでしょうけど。

久保田市長

学力の話で言いますと、7年前に私が市長になった時に、私は学校教育が重要だということをさかんに言っている。その時に、小中学校の校長会で講演をしてほしいと言われた。なぜ教育が重

要なのかについて、講演依頼を受けて講演をした経緯がある。

やはり読む力、書く力、これがベースだと。私も前職は大学の教員でしたから、これがベースだと思っている。

そういった中で大変危惧するのは、世の中が、当時7年前の話だが、これからは英語だとか、子どもたちに小学校から英語を学ばせるとか、それから最近もう一つ危惧するのはパソコンを使える様に ICT 教育とか、また調べ学習ということも力を入れているが、パソコンやスマホで調べてそれを書き写すという、つまり結構安易なものである。結局読んで、書いて、その過程で、ちゃんと色々試行して考えて、構成を考えてとか、どうしたら伝えられるかということを考える、その訓練ができていない。便利な ICT だとか、英語だとか、そちらの方にばかりいっている様な感じがしてしょうがない。

その結果が、学力調査を見てもこの浜田市の部分の結果はいつも読解力が弱い。それから算数の問題にしても、文章力、文章問題は問題 A とか B とか、そちらの方が弱い。それをものすごく危惧している。

私が大学で教えていた時の教員の仲間の多くの人たちが言うのは、やはり書かせてみて初めて力が分かると言う。

高校や、それから最近は大入試も、センター試験みたいなものはあるが、そのあとはやはり個別の試験では書かせる。大学に入ったらなおさら書かせられる。社会に出たらまたそこで書かせられる。

ところがこの問題は、読解力とかそういうのが弱ければ、上にいけばいくほど、苦勞するだけで済むのではなく、ひょっとしたら取り残されるという心配もある。

したがって、私はもう1回、小中学校における国語教育、先ほど教育部長が言ったのは作文ではなく、調べ学習である。

私は調べ学習っていうのも、問題意識を持って調べるのは重要だけど、その前の段階があるのではないかという感じがする。

もう1回その辺の、国語学習について、だから算数の点が悪いのも、結局読解力が悪いから問題 B が解けないので、ここがベースだと思うが、どうだろうか。

やはり読み解く力というか読み込む力、この辺りがないと算数や数学も向上していかないと思う。ひいては、表を読み取ったり、グラフを読み取ったりするところにも繋がってくると思う。

宇津委員

久保田市長

今年の入学試験は、2年くらい前に色々と議論があり、記述式をやろうとか、色々な話があったが、その途中で色々な問題があり、頓挫した。

しかし、大学が求めているのは結局そういった記述式とかに対応できる様な、自分で読み解いて、書ける子どもを求めているわけである。

それが世の中に必要だと思っているが、その部分が浜田市の子どもは弱いということになれば、それを強めるにはどうすればいいかというところに力を入れないといけないのではないかという感じがする。

高校の先生の話聞いても、やはり中学生や小学生の時の学力があまり高くない子が、高校3年間だけで良い大学に入れようなんて思うと限界があるということと言われる。

そうすると、中学校あるいは小学校の段階から、この部分は特に強化しないといけない。私はそれが国語教育ではないかなという思いをずっと持っている。

社会とか、覚えれば点数が取れる科目があるが、やはり考えること、ベースの国語教育にもっともっと力を入れるべきではないかなという感じがするが、その辺を何かできないか。

私は司会進行なのに、ちょっと話し過ぎた。

岡田教育長

私は教育委員会に入って、今年の5月27日の小中学校の学力テストを自分で解いてみた。

自分の時のテストの印象に比べて随分変わっているなという感じがしている。まず問題文自体のボリュームもかなり増えており、それから単純に答えを聞くというよりは、長文を読み解く力や自分が表現をして作文して答えを導き出すこととか、これは国語だけではなく、算数でも同じ様なことが言える。算数も答えを出すということより、考え方を問題文の中で色々与えながら、それを生徒が咀嚼して、答えに行きつく様な、その途中の過程がすごく聞かれている。

だから、読解力をつける、あるいは自分の考えを伝える、ここをどう、子どもたちの能力を伸ばしていくかということをしごく問われているんだなという感じが、実感として分かった。

教育委員会も、学力向上推進室を中心に、様々な取組をしており、実際に国語教育の部分で、どれだけ限定して、これだけはこのことではやっているかということになると、ちょっとまだまだ

ここは課題があるが、少なくとも児童生徒が自分の考えで、相手に何かを伝えるために、やはり協調学習の今の取組はものすごく有効だと思っている。

協調学習が中学校では少しずつ広がってきたが、なかなか広がりを見せていない。

それは、やはり授業改善をするための先生方の授業改善に向けての姿勢などもやはり問われてくる。

一方で、先生方がものすごく多忙で、先日管理職の面接をしても、先生の余裕の時間を5分作るためにものすごく苦勞しておられる現状がある。

教育委員会ができることは、浜田市としての教育のあり方をきちんと示すということと、支援することもちろんだが、先生の多忙感を少し軽減してあげられる様な、そんな政策を入れて、そのパワーをやはり授業改善に向けてもらうということが一番だろうと思っている。

久保田市長

先生の多忙感の削減は、これはかねてから教育現場から言われていることなので、教育長が壁にならないと。県から報告求められたらそれは答えませんか。

岡田教育長  
久保田市長  
岡田教育長  
久保田市長

そちらですか。

そういう声を聞いている。

はい。

あるいは何か、先生方で当番制にして答えているとか。

具体的にどうすればいいか分からないが、先生の負担を取る方法はちょっと考えないといけないと思う。

議論が長くなったが、もう1点だけ。先ほどの国語教育だが、一番は、読み取り、読み解く力、書く力である。これが、浜田の子どもたちが常にいつも足りない指摘をされていて、じゃあどうするのか。これはもっと本気になって教育現場と一緒に頑張って取り組まないと、ゆくゆくは子どもたちの、色々な将来のチャンスが狭まってくるのかなという不安がある。

もう1点だけ。私が事前にこの資料を見て思ったのは、具体策の項目がものすごくあるということ。結局、この次の4年間でどれをやるのか。おそらく教育部長は全部やると言うだろうと思うが。

次の4年間はこれとこれとこれをやりますとか。この3つを力入れてやるとか。もうちょっと絞れないのかなと思う。本当はそ

河上部長

れだけ絞りたいところだが、やはりこういうふうに、やや総花的にならざるをえないものか。

計画の構成上、こういったことをしますということで今、確かに項目多いですが、市長が言われた様なポイントを絞ってということは、この表とは別個のところ、記載なり、目標というかたちでの、いわゆる重点ですということは可能ですので、その辺は検討させていただきたい。

久保田市長

結局、あれもこれもやりますということは、結果的にはできたかできなかったかということがよく分からない。

これとこれはやりますという3つか5つか分からないけどそれぐらいに絞り込んで、次の4年間はこれをやるとか。

例えば学力については、1年目は学力が、読む力がこの地域の子どもはどうして劣っているのかという分析をする。必要に応じて、そういった外部の教育コンサルタントの力を借りる様な方法もあると思うが、いずれにしても分析をして、対策を練ってそれを実行する。

それから宇津委員が言われた様に、こうやるといったらもう愚直にやり続けるといけない。おそらく教育というのは、愚直にやり続けるべきものだと思う。

ちょっとこれ全部総花的過ぎる様な感じがするので、体系上書かざるを得ないのかもしれないが、ある程度、もうちょっと項目を絞る。その代り、これとこれには力を入れるんだとか。その辺はいかがか。

宇津委員

焦点を絞って示してあげるということは、指導者としては、ここに力を入れればいいんだということがはっきりすると思う。指導者としてもそれは、望むところじゃないかという気がする。

久保田市長

ともすれば審議会とかをやると、色々な立場の方が出て来られるから、これも入れてほしい、あれも入れてほしいとてんこ盛りになる方向になりがちである。それぞれの立場の人が、お立場を背中に背負いながらご出席されるので。

だけど、どこかその中で、総合的にてんこ盛りになった後に、でもここに力を入れるんだという、選択と集中ではないが、てんこ盛りにするのはちょっと、ここに力を入れるんだということを、その代わりこの4年間はこれを徹底してやりましょうというふうにやりたいが、教育長、できるか。

岡田教育長

特に重要な施策という位置付けでまとめることはできると思

う。

それともう1点、今学力の向上ということがあるが、前提として、私は子どもたちが早く自分の夢を見つけるということが重要だと思っており、やはり能動的にこういうものになりたいということが決まってくれば、努力する姿勢とか授業を受ける姿勢も変わってくる。

そこを見つけるために、やはりキャリア教育の大切さがあるのだろうと思っており、このことをやはり、しっかり取り組んでいかななくてはいけないと思っている。

それで、今学校現場の方から、市長が原井小学校で講演された内容とか、これで子どもたちの目が実際変わってきた、何のために勉強をしなきゃいけないかということも分かったということがあって、ぜひまたその授業をしていただきたいという要請を受けている。

できればそれを、オンラインでも今できるので、どこかの会場でやりながらオンラインで皆さんに見てもらう様なことをちょっと計画したいと思っている。

久保田市長

いつでも声をかけられれば行く。ただ声がかかるのは年に1校くらいしかない。別にこちらから拒否しているわけではないのだが。講演したところの校長先生が、作文を読むと、子どもたちの意欲が高まったとか言われると嬉しい。先ほどの、オンラインでやってもいい。

岡田教育長

具体的に計画を進めたいと思う。やはりそういう子どもたちが、こういう人に憧れるとか、自分もこういう道に進みたいとかいうことを少しでも早く見つけてもらうためには、学校だけではなく、やはり地域に出て、地域の大人の人の中で揉まれたりすることで色々な気付きがあると思うので、それを大事にしていきたいなということは、根本にある。

久保田市長  
砂川副市長

副市長はどうか。

皆さんの熱い教育の思いを語っていただいたので、なるほどなと思った。

一つ、この後のテーマにも出てくるが、今浜田市が新たに取り組もうとしているのは、教育委員会は義務教育、小中を中心にやっていた。それに高校をくっつけようという思いがあるので、この7ページの中で言うと、小中連携とかに高校も入れて、計画は作るとか。実際の取組の中身はまた、魅力化とかそういうところ

で話が出ると思うので、計画としてはそういうこともありかなと思っ  
ている。

それからもう1点は、郷育のところで、今回社会教育とまちづ  
くりが市長部局にきたが、私は、防災ということがすごく最近身  
近に感じており、どこかで、これは学校だけでやるわけではない  
ので、社会教育の方に入れるべきかもしれない。

防災教育というものを、机の防災教育ではなく、市がやる防災  
訓練とかに、中学生小学生にも出してもらうとか、身近に感じても  
らう様なことも必要かなと思っている。

小学生は自分の身を守る。中学生は、逆に言えば人を助けると  
いう力があると思うので、高齢者のいざという時に手助けになる  
とか、そういうものを身に付けてもらうことによって地域との連  
携、地域に思いが深まるかなという気がするので、その2つが感  
じたところである。

久保田市長

教育委員会と一緒に頑張って取り組むので、よろしくお願いた  
い。

時間も1時間経ってしまったので、2つ目のテーマに進んでよ  
ろしいか。

各委員

はい。

久保田市長

2つ目のテーマは、教育の魅力化についてである。具体的には  
教育魅力化コンソーシアムについて。それから、市内中学校進学  
等の状況について。合わせて説明をお願いします。

山口課長

それでは、資料2と資料3でご説明させていただく。

先に資料3ですが、今年の春中学校を411名の子どもが卒業し  
ているが、その進路先である。63%の生徒が市内の高校へ進学し  
ている状況である。

こうした状況を踏まえながら、次の浜田教育魅力化コンソーシ  
アムについて、今の取組状況を説明させていただく。

資料2をご覧いただきたい。

3月16日に高校の魅力化を進めるにあたって、高校だけでなく、  
地域、小中学校、旧公民館を含めて、一緒に高校魅力化を考  
えようということで、協働体を設立した。

設立だけして、実際5月13日に第1回の関係者が集まったの  
役員会を開催した。

資料1ページにある様に、何をするかというところが、1から  
6の項目で、要は高校に進路、将来展望する部分で、キャリア教

育の推進が非常に大きな命題である。ここで就職し、進学も含めて、将来どうするのか。

それと、学校にとってやはり、生徒の確保というところで、魅力化、誰に魅力を持ってもらうかというところ、やはり地域なので、進路先に選んでもらう。その選択で、生徒の確保を中心にしていく。

今回、キャリア教育を進めるのに、学校だけでどうしようか、というところで、地域の人達との関わりや社会との関わりが非常に強く求められる。そこで、コンソーシアムに、学校と地域を使う、学校と企業を繋げるという機能を持たせて、全体で魅力を進めるということがコンソーシアムの主なものである。

今年度、では何をするかというところで、7ページ目をご覧いただきたい。今年度の事業計画を載せている。

大きくは、目的は上に書いてある様に、浜田市内は特別支援学校の2校が入るが、水産高校、商業高校、浜田高校、色々校種が違い、それぞれ教育目的の違うところで一緒に魅力を作ろうというコンソーシアムだが、共同事業としては、子どもたちが考える共通課題を、教育委員会がコーディネートする事業が協働事業である。

3番目に浜高、商業、水高、すでにそれぞれの学校で決められている、今年度のそれぞれの魅力化を実行する事業を掲載している。

9ページの5番目であるが、市内県立高校への進学率向上に向けた取組、先ほどの生徒の確保に関係するが、今回この事務局の学校教育課では、来週から市内中学校の学校訪問をして、まず、市内の高校の生徒の確保をするのに、どういったニーズがあるかというところで、ヒアリングをして、まずはニーズを掴みたいと思っている。ひいては今後、生徒の確保に必要な施策を、市として、コンソーシアムとして考えていくためのヒアリングをしたいと思っている。

6番目が、やはり今高校の子どもたちも、地域と関わりたいということを思っているので、今、そこを橋渡しするコーディネート機能も、制度を作って周知をかけているので、進めたいと思っている。

最後7番目であるが、今後、今年作ったが、どういったかたちの魅力化に向けたコンソーシアムのかたちが良いのかというこ

とを事務局として検討していきたいということで、今年度は5番目の将来の定員確保とか、6番目のコーディネート機能、こういった部分を中心に進めていきたいと思っている。

当然来年度以降も事業を進めるが、12ページに各学校の校長先生の思いが掲載されている。

少しご紹介させてもらおうと、12ページは浜田高校の校長先生は、社会とのつながりを作って、社会に出た時の見通しを持って進路選択としてコンソーシアムを有効に使いたい。

浜田商業高校の校長先生は、学校で地域課題の研究に取り組まれているが、その研究、あとは地域との橋渡しをしてもらいたい。共通して、進路選択としてコンソーシアムを有効に使いたい。

浜田水産高校は少し特殊で、県外からの留学生も多くいらっしゃる。そういった、地元で船員等で水産業に関わる人材をいかに多く残していきたいかというところで、コンソーシアムに期待している。

始まったばかりで、まず学校をどうするか、どう支援するかを今年度かけて検討していく。

本日は、そういった高校の魅力をどうするかについて、委員方の皆さんに意見交換していただきたいと思う。よろしく願います。

久保田市長

まず、今の説明で意見交換の前に質問や何か分からないことがあるか。

皆さんコンソーシアムについてお分かりになっておられるか。

私がこの様なことを言ったら、教育委員会にお叱りを受けるだろうが、いまだに私自身、腑に落ちていない。

浜田は3つの高校の、市内にある3つの高校の魅力化のために、コンソーシアムという組織を立ち上げて、県からコンソーシアムを作りなさいと言われている。高校によったら、それぞれの高校ごとに作っているケースもある。

だから浜田の場合は、性格の違う3つの高校を1つのコンソーシアムでやっている。まず共通の課題でいうとキャリア教育、あるいは地域活動の人たちとの接点を設けるとかいったことはあるが、キャリア教育という言葉にしても、浜田高校でやるキャリア教育と、浜田商業高校でやるキャリア教育は違う。例えば浜田高校では、大学で工学部に入って、技術者になりたい、ロボットを作りたい、医者になりたい、弁護士になりたいという様なキャ

リア教育もあれば、浜田商業高校のキャリア教育はどちらかという  
うと、地元で就職するということになる。水産高校のキャリア教  
育だと船乗りになりたいというようにちょっと違う。

浜田市は一緒くたにコンソーシアムを作ってやっているの  
で、実際やり方が難しいなと思った。とはいえ、遅ればせながら今年  
からスタートさせた。立ち上げた以上はここで何か、それなりの  
成果を出さなければいけない。

こないだ浜田高校の校長先生に聞いたら、地域のことを何か学  
ばせたいが、この問題は誰のところに行けばいいのかという、人材  
バンクというか何か、例えば魚のことを聞きたければ誰のところ  
へ行けばいいのか、農業のことを聞くには誰のところへ行けば  
いいのか、それが欲しいなどは言われた。

委員方はコンソーシアムについて、どう思われるか。

花田委員

そう言われると、要は、目的は何だろうと、もう一度規約、目  
的を見ると、こういうことだということが改めて分かった。

「人づくりを支援するとともに、地域活性化の好循環を寄与す  
ることを目的とする」というところであれば、それを目的に作っ  
たのだらうなということ分かる。

これを目的にコンソーシアムでやるけれど、それぞれの高校で  
やることはまた別にきつと持っておられて、それはまた別なのか  
なという気がしている。

久保田市長

杉野本委員はコンソーシアムについてどう思われるか。

杉野本委員

この前の委員会で初めて聞いた。あとで読ませていただき、み  
んなが寄ってたかって子どもを育て、組織を作って応援していく  
のだらうなということだと思う。

久保田市長

浜田市の場合、正直難しいなと思っているのは、コンソーシア  
ムの概念の歴史的なことを言うと、隠岐の島の海士町は離島でど  
んどん人口が減っており、学校が、生徒が少なくなって、県外か  
ら、できるだけ都会地から来てもらってということで島留学とい  
う制度ができた。

その時に、その地域の皆さんと一緒にあって、色々な体験学習  
をしながら、あるいは地域の課題を一緒に共有したりという、そ  
ういうことによって、ある種の、島前高校の魅力化を高めること  
によって、外から、県外から子どもたちに来てもらいたい、その  
様などころからスタートしている。

島根県は人口減少のところなので、どの高校も、都市部の高校、

宇津委員

松江や出雲は違うかもしれないが、他は浜田も含めてほとんど定員割れである。

だから他から呼びましょうという、そういう中で、島前高校の取組がこっちでも、県内各地でも生かせるのではないかということで、その地域の皆さんと活用する、組織対応としてのコンソーシアムである。

魅力化というのは、誰に対する魅力化かということ、地元の子どもたちもそうだし、外からも来て欲しい。そういうことで、現に津和野高校だとか、そこで都会から来た子どもが良い大学に入ったとか。みんなそういう取組がある。それで浜田でも始めた。

ただ浜田の場合は、先ほど話したが、3校それぞれ性格が違う高校である。宇津委員、どう思われるか。

特別支援学校も含めて5校、それは、それぞれの学校の特性を生かして、取り組まれて僕はいいと思う。

それがないと、やはり学校の存在そのものが問われるのではないかと思う。

そこで、現状がどうかということだが、恐らく高校生になった途端に、その地域から姿を消す。見えなくなる。帰ってきているはずですが、高校生の姿が見えない。そこを何とかしなければいけない。冒頭に地域とともにある学校とあったが、「地域とともに」と謳ってある。そこを何とかしていかないといけない。

高校側からすると子どもたちを地域にぶっこんでやれ、ぶっこんでほしい、そこで地域の方との触れ合いを基に、何か交流が生まれる、情報が飛び交う、共通理解が生まれる、というところへ持っていかないと、地域とともにというところがクリアできないと思う。

もっと高校生の力を地域も逆に利用する、活用するということもやはりあっていいと思う。相当な力を持っているはずである。

そのあたりが、ここにコーディネートという言葉が出てきたが、コーディネートする役の人が絡んでくることが大事かなと思う。

それからもう一つは、ある一部の人だけに任せるのではなく、組織的に動けるかどうか。それはそれぞれの高校の中で、この狙いを基にした組織が作られているか、担当者だけに任せているのではないかということ。その様なきらいがあるので、何か組織立

久保田市長

って、学校全体で取り組めるような企てが必要かなと思う。

皆さんから、このコンソーシアムの動き等々について、魅力化についていかがか。

岡田教育長

もともと、この島根県の基本的な考え方は、ふるさと島根を原点にして、この地域のことをよく知った子どもたちが、将来出て行くにしても、そのことを承知した上で、出ていってもらいたいという思いがある。

そういう地域のことをよく知る子どもたちを育てるためには、幼児の時から、義務教育、高校、あるいは大学という過程の中で地域とどう関わっていくかっていうことがとても大事で、それをこのコンソーシアムを作って地域ぐるみで一体的にやろうということが、県の基本的な考え方である。

新田教育長も、先般の校長先生方を対象にした講演の中で、キーワードは地域ということをおっしゃった。それがどう魅力と繋がっていくかということだが、例えば、年齢の小さい子どもを地域に出そうと思うと、まずは地域の中で体験をするとか、英語の前置詞で言うと in の世界である。

それが、地域について知ろうということになってきて about になる。高校ぐらいになってくると、これは、地域のために行動するという for、あるいは、with である。地域とともに地域の未来を考えていこう。この部分が非常に弱いので、先ほど宇津委員が言われた様に、高校生の姿が地域に見えないので、ここを、やはりコンソーシアムで特に中心的にやろう、と。

ですから、この教育の魅力化といいながら、基本的にこれは高校の魅力化だと私は受けとめているのだが、それを地域ぐるみでやっていこうということである。

その中で当然、発見もあればキャリア教育もあればふるさと教育もあるという、そこに繋がっていくのだらうと思っている。

ただ、市長が冒頭言われた、高校の魅力はそれだけかと言うと、やはり色々高校によって目的が違っており、今回のこのコンソーシアムの予算を見てもらうと分かるが、この地域とつなげるためのコーディネーターを配置している。

ただし、各高校がそれぞれ魅力を出すために高校任せで予算をそれぞれ配当している。

それを、これから地域の方の意見も聞きながら、各高校がどう魅力を出していくかということまで議論をして、さらに有効な高

校のためのお金を使っていくということが、これからステップアップとして考えられるのではないかと思っており、そういう意味で言うところの意味部会的なもので、各高校の魅力についても協議していく場が必要かもしれない。

それらがすべて、この全体のコンソーシアム構想の中にすっぽり入っていて、それがためにぼやとしたものになっているが、基本的には、子どもたちを地域とつなげて育てていくという大きな、県の目標に沿って、県が予算をつけて、それに浜田市が今回手を挙げている。そういうふうに、コンソーシアムについて理解している。

久保田市長  
岡田教育長

コンソーシアムの対象は高校か。

これを見ていただくと、小学校や中学校、義務教育も当然入っているが、基本は、高校の魅力化を核としてやっていくと思っている。ただそういう高校の子どもたちが地域に出ている姿を、中学生は見たり、あるいは大学と連携してやっていく姿を見たり、地域の人の中でもまれたり、それがやはり中学校や小学校の子どもたちにとっても、とても魅力のあるものに見えてくるだろうと思っており、それが見えてくると、例えば高校進学で、その地域の高校を選ぼうとか、繋がっていく可能性はあるだろうと思う。

久保田市長

そういう意味では、今岡田教育長が整理してくれたが、小中学校は、これまでふるさと教育という、それぞれの地域を知りましょうという、地域の人を知る、地域の歴史を知る、地域の様々な活動を知りましょうというレベルである。

それが小学校から中学校になるともう少しステップアップするかもしれないが、高校に行ったら今度は、地域の課題を知って、それに対してどうすればいいかという、自分の意見を持つ。

これまでも隠岐の島前高校や津和野高校、吉賀高校でやっている取組はそうである。

だから、地域課題について考えて自分はこう思う、という。中には、そういうことをやるために大学で学んで戻ってきて、そういう仕事をしたいとか。だから地域のことをもっと知ってもらいましょう、地域の課題を一緒になって将来解決する人材を育てたい、おそらくそういうことだろう。

島根県立大学も、ご案内の様にこの4月から学部再編をして地域政策学部を作って、島根県内の子どもたちもたくさん、ウエイトを高めたいと言われるが、他からも来る。他から来た人たちも、

できれば島根県の色々な課題解決に、皆さんの知恵を貸してほしいという、一連のそういう流れである。

だから今回のコンソーシアムは、高校生に対して、もっと地域のことを知ろうということ。それは小中学校のレベルではなくて、地域の課題を把握してもらおう、ということか。

岡田教育長

はい。その高校が今、例えば商業高校や水産高校は商品開発の方で地域貢献しようとしているし、浜田高校も地域課題に対して政策甲子園のような、JCさんの取組もあったが、それに対して何か提言しようという動きも少しずつ出てきて、学校の授業の中でも取り込まれ始めている。ただ、その地域課題を知るためにまだまだ、材料不足ということがあり、そこに今、このコンソーシアムで力を入れていこうということがあると思う。

例えば特別支援学校の場合は、そこに今子ども、小学校中学校の子どもでもいいので、来てもらって一緒に交流することに気がつきがあったり、地域を町内という捉えではなくて、企業も学校小中学校も大学もみんな含めた、その資源ととらえて、繋がりを作っていこうというのが、このことだと思う。

久保田市長

こういう考え方で、ただ、実際にやろうと思うと、3校まとめてコンソーシアムということになると、ちょっと性格が違う。

例えば津和野高校は津和野町に1校しかない。吉賀高校なら吉賀町に1校しかない。大きな高校もそうですが、その地域と高校が一对一の関係にあるところとちょっと違うので、浜田の場合はちょっとその辺りが、難しさがあるだろうと思う。

ただ、今年とにかくやってみて、ということかなと思う。

それともう一つは、魅力化というのは、これは僕は職員にいつも言っているが、何かピンと来なくて、コンソーシアムを作ったら、高校が魅力化になるのかなと思う。

高校の魅力化というのは、基本的には背景には定員割れを防ぎたいということがあるわけなので、隠岐の島前高校も、津和野高校も吉賀高校も、そうである。定員割れを防ぎたいから、魅力ある高校にということ。

あちらは県外から子どもたちを呼ぶという方針でやっておられるわけだが、浜田の場合は、ここにもう一つ壁がある。

私が大変危機感を持っているのは、地元の中学校の子どもたちが、市内の3校の県立高校を選ばないというか、選ぶ子が減ってきているということに危機感を感じている。

一言で言うと、それぞれの高校の魅力がない、あるいは魅力が発信できていない。

普通高校、商業高校、水産高校とあるが、それぞれがもうちょっと生徒に来てもらえる様に取り組みないと、定員割れがどんどん進んでいく。

だからこれは、コンソーシアムを作ったからといって解決しない問題だろうと思っている。それで、この4月から新しく専任の係長を置いた。一言ご挨拶を。

力石係長

地域学校連携係ということで、係長を拝命しました力石と申します。

コンソーシアムの運営と併せて、先ほど市長からありましたとおり、地元の高校への、中学校の進学のところを改善していくというところについても、各学校としっかり話をしたりしながら進めていこうと思っている。課長からも説明があったが、来週は中学校に訪問させていただき、市内の高校を選ばない理由は何か、どこにあるのかといったところについても、しっかり聞いて、施策に反映していきたいと思っているので、よろしく願いしたい。

久保田市長

おそらく、やはり高校が、定員割れしているという回答が、なぜだろうというふうに調べるときが一番手っ取り早いのは、中学校へ行ってきて、中学校の進路指導の先生たち、あるいは子どもたち、あるいはその保護者が、なぜ、市内の高校を選ばないのかという、そこをずっと調べてヒアリングしていくと、何か見えてくるのではないかな、という気がして、それを徹底的に調べてほしい、具体的に調べてほしいとお願いしている。

少し前、3年ぐらい前に浜田高校の校長先生と話をした時に、石見智翠館高校はスクールバスがあるが、スクールバスがあれば浜高まで来てくれますよと言われるので、私はその時に、先生本当にそうですかと、バスの問題ですか、と言った。

もしそれが本当に浜高に生徒が来ないという理由であるなら、何とかバスを市が出すとか。結構、町がバスを購入して、スクールバスを運営しているところがある。川本町もそう、邑南町もそうである。色々あるが、本当にバスの問題かという、ちょっと問題意識があった。

この資料の中でも、金城と旭の中学校があるが、当時金城と旭は、昔は浜田高校とか市内の高校に来ていたが、石見智翠館高校

杉野本委員

はスクールバスがあるから、そちらへ行っているという話だったが、そんなにたくさんは行っていない。

旭は令和元年に6人行っているが、じゃあ皆石見智翠館高校のスクールバスに取られているかということ、そうでもない。その代わり今地元志向ということもあり、矢上高校などへ行く様になり、やはり矢上高校に魅力を感じているのか。

そういう様な、スクールバスだけの問題とかではなく、何かもっと本質的な問題があるのではないかなという様な気もしている。その辺をヒアリングして、分析してほしい。そうしないと対策が立てられないので。

杉野本委員はどう思われるか。

私も、一つはスクールバスの問題だと思う。

今日私の子どもに聞いてみた。30 過ぎた子どもに、高校が今は変わってきているがどうかと聞いてみたら、一つは選択肢が広がっているから、変わるものもあるだろうなど、こんなことを言っていた。

自分の頃は部活もできるし、近くに通うのも楽しめというのが地元を選んだ理由の一つだと言っていた。今は部活の時代ではないと、部活を高校の魅力の中で、市内の高校の魅力でやっても違うのではないかと感じた。

むしろ、中学校を卒業して県外の高校へ行く子どもがどんどん出てきているという話である。レベルの高い子どもたちが、市外の私立の、そういった音楽なり卓球なり、全部が全部とは限らないが、そういった特色があるので、本当にそれをやりたいからそちらに行くということもあるだろう。

保護者からすれば、物騒な世の中なので、ちゃんと家の近くまで見てくれるのは、安全、安心という部分も大きいだろうと思う。

第三中学校や浜田東中学校は市内に進学せずに、他の高校へ行っている。わざわざ第三中学校から石見智翠館まで行くということは、それなりの何かがある。第三中学校から行くには、JR を使うか、あるいは公共のバスなら時間がかかるだろうし、元気のある子は自転車で行く子もいるかもしれないが、雨が降ったりすると、やはりスクールバスなら安心できる。送迎の心配もない。そういうことが理由の一つにはなっていると思う。それがすべてではないと思うが。

この魅力化について気になるのは、確か、地元に戻らなくてもいいと思う親の割合が、県の西部はすごく高くて、3分の2くらい。無理して帰らなくてもいいよという、保護者が多い。それだけでなく島根県西部は、人口もそうだが、児童生徒の減少率がかなり東部に比べて高い中で、地元に戻らないということは、本当にこの浜田に残って、浜田を支えていこうという子が、強い気持ちを持つ子が、育っていくのだろうかとすごく危惧するところがある。

その理由の一つが、就職先、働き場所がないというのは、親の考えにあるのかなという、私の分析である。

もう一つは別の話で、まちづくりセンター設置の時に、各地域の中で公民館がなくなってまちづくりセンターになった時に、市からも色々支援をしてもらえるのだろうかという様なことを言われる地域があったり、こないだの学校統合計画の説明会に行った時でも、色々統合するにあたって要望とかする中で、教育委員会なりどこの方で世話をしてもらえるのだろうかという、ある部分頼るというか、そういう声が、高齢になってくると仕方ないのかなと思いつつ出てくるという現実がある。

浜田高校の校長先生が、主体性という部分を魅力化の部分でおっしゃっているが、何かそういうことにも繋がってくるように思い、高校の魅力化とまちづくりも合わせて、人づくりの部分で、浜田が好きだよとか、子どもが意識付く様な魅力から、そのためにはやはり、先ほどおっしゃった県立大学や民間、官公庁と連携しながら、一緒になって、まちづくりをする経験を高校の時にするとか。あるいは、小中学校でもふるさとの人や事と関わるだけではなくて、ここは楽しかった、でもここはどうなるのかなという課題の様なものが発見できる様なふるさと教育を小中学校でもして、中学校から高校くらいになってくると、その課題解決に自分が考えていける様な、そういう学習、まちづくりを取り組んでいく様な学習に入って、大人と一緒に議論しながら話し合える様なところが出てくると、余計に浜田の魅力を感じて、やはり地元の学校に行って、地元のこと、良さも分かるし、課題も見えてきたので、頑張ってみようという様な気持ちが育ってもらいたいかなと、ぼんやりと感じたところである。

2番目の、コンソーシアムや魅力化の部分で意見があるか。  
浜高を卒業して出ていってしまった子どもに意見をもらうこ

久保田市長  
花田委員

とはできないのかなと思う。進学で出ていった子は、進学先がないから行っているということはあるが、それで戻ってこない人は、どういったことがあれば浜田に戻りたいと思うのか。

いつも出て行ったきりで、でも、今の時代は繋がり続けることはできると思うが、ずっとここの浜田市の政策についてその若者にどうすればいいと思うか、いつも意見を伺ったりとか。外の人たちにも伺って、彼らにこの町を作るという役割があれば、まどろっこしいからもう戻るわ、みたいな感じの。そういう役割でやはり人間は居場所ができるので。そういう道ができないかなとずっと思っている。

というのは、うちの子どもは出ているが、今回のコロナの関係でも、やはりずっと浜田のことは心配して気になっていて、帰っては来られないが、市役所に応援団みたいなものがあつたと。それになりませんかみたいなものがあつたが、それを読んだ時に、応援団になったら何の仕事があるのか、何の役割があるのだろうかと思ったが分からなかった。何にもなさそう、これなら僕は応援団にはならないなと言っていた。

何かそこに応援をするよ、と名前だけを入れるのではなくて、何かこういった役割を担って欲しいというところを、本当に政策の一部としてやっていくというのが、この話の中に、コンソーシアムの中に、出て行ったものが入る、入れるか、入れないだろうなと感じたり、それとは別にずっとその辺りを思っていて、その辺がなんか、残念かなという気はしたりもしている。

今いる高校生にどんどん聞いても、たぶん彼らは分からなくて、もう入っているの。中学生のこの3つの高校がどうであれば進学したいと思う場所になるのかと言われても、それはやり方によって魅力化はできると思うが。

当時の若者とこれから帰ってきて欲しい人たちに対して、聞いてみる。聞くだけでも、すごく価値があるのではないかなと思う。私たちが見えないところがあるのではないかなと思う。

久保田市長

1件、1件聞いているということなので、成人式とかでアンケートでもすればいいのだろうが。

これまでも、我々の分析では、例えば18歳人口がざっくり450人いる。どんどん減ってきてそのうち400人を切る。今450人として、そのうち8割、18歳で地元就職する子は約100人。ざっくり2割である。

8割は一旦、県外、松江みたいなどころも含めれば、松江とか、大きなところも含めた県内に出ていく。つまり450人のうち350人は一旦出る。

そのうち、出た人が就職か進学が多い。進学が一番多い。そのうち、帰ってくる子がざっくり100人である。

帰ってくる子どもというのは、教員免許を取って学校の先生になるとか、保育士の資格を取って保育園に勤めるとか、あるいは看護師になって勤めるとか、そういう学校に行って浜田に受け皿の職種がある子どもが多い。

すると350引く100、残りの250人。その250人は多くの場合が、浜田市内にその人たちが勤める様な、やりたい仕事、また仕事があっても待遇等々がないから、一旦250人くらいの人たちは、出たままである。

何年かした時に、10年20年した時にUターンで帰ってくる人もいる。この繰り返しである。

だから、出た人になぜ帰らないのかと聞いた時に、おそらく、アンケートしてもそうだと思うが、自分がその特に、大学専門学校に行っただ様なことが、浜田には、それに答えられる様な仕事がない。仕事があっても待遇とかで合わない。

これは町が小さくなればなるほど、浜田くらいのところだと、さらに小さくなると、さらにその傾向が強くなる。逆に町が大きくなれば、松江の場合は、今はその比率が、地元に戻ってくる比率が高くなっている。広島だったらもっと高い。

つまり、町が大きくなればなるほど色々な企業もあるし、働くところもある。そういう意味では、浜田みたいなどころに、なぜ帰ってこないのと聞いたときに、一言で言うと、自分のスキルを、せっかく学んだスキルを生かせる仕事が、及び待遇も含めてないということ、これがやはり一番大きなところだと思う。だからおそらくアンケートをとっても、その様な結果が出てくると思う。

その中でどうするか、これがなかなか難しいことで、だから浜田市内は、ずっと社会増減は常に300人前後マイナスである。

だから18歳人口から推計すると、今みたい数字になってくる。

今それに加速的に減っているのは、さらに昔は色々な企業の支店や支社が浜田にあったが、今はそれがどんどん廃止になっていたり、縮小になっていたりする。昔はその人たちが家族を連れて

来てくれたりしていた。支社がなくなったり、支店や支社があってもほとんどが単身赴任であり、その繰り返しである。

したがって、じゃあ働く場所をどうするかということになると、大企業を連れてくるわけにはなかなかいかない。そうすると、今の浜田市内の働く場所に価値感を持っている人が、そこに価値感がマッチすれば、来てもらう。そうすると、どうしても、200人300人マイナスがある。その中の何割にしかない。その様な状況で、なかなか頭が痛い。

元地域政策部長、いかがか。

岡田教育長

ただ、これまでの様にどこかの企業に入って、その企業で、例えばブランチオフィスを転々とすることはあるかもしれないが、それで一生勤められるかという、若い人たちの意識も変わってきて、3年とか5年で職を変えようかなという人がものすごく増えてきている。

その時のタイミングは、もしかしたらUターンのタイミングだろうと思う。確かに企業で培ったノウハウをそのまま生かせる職があるかどうかということは別にしても、これからはICTの時代でもあるし、それから離れたところでテレワークもできるようになってくると、むしろそういったことで、地域の暮らしやすいところにながら仕事ができる。実際浜田もこういう人が増えていると思う。例えば、少ないがそういったところに力を入れていくというやり方もあると思う。

ただ、そういう発想を持ってもらうためには、やはり小さい頃から自分の考えを主体的に持ったり、それから、人に言われてやるのではなく、自分で何か考えようじゃないかという、その考え方を身に付けさせてあげるためにみんながどう動くかということをしっかりやっていく必要があるかなと思う。

道は遠いが、それが結局近道の様な気がする。

私はやはり、結局教育の部分ではないかなという思いがある。UIターンのことも。

久保田市長

今市内の、我々が考えていることは、大学の新卒者を、22、23歳の子どもたちがすぐ浜田に就職してもらうということは、あまり期待していない。

一旦どこかへ勤めてみたい。そうしたら通勤電車で往復2時間かかるのは嫌だとか、コロナもあるし。そのうち30歳前後でけっこう転職する人が多い。市役所も5年前くらいからやっている

岡田教育長

が、中途採用に随分力を入れている。

一旦都会を見て、やはり給料は少ないけど田舎の方がいいという、そういう人たちに帰ってもらいたい。

そのタイミングの時に、はたと思い浮かぶのがふるさとの景色やふるさとの人の顔である。

そこを持って一旦都会に出ている人と、全然面白くもない、何もないという思いで出ていっている人はやはり違うと思うので、教育委員会は高校まで含むにしてもせいぜい義務教育が中心、あるいはその下の、幼児教育が中心なので、そのうちにそういう思いを持ってくれる人をどれだけ育ていけるかということが、やはり大きな課題ではないかと思う。

久保田市長

そういう意味では子どもの時に、浜田がいいよ、浜田はいいよとか、親や友達、周りが言ってくれているのが、頭の隅に残っていて、とはいえ現実にはどこかに就職したい、大きな企業に入りたいというのがある。

しかし、その辺が常に頭に残っていれば、30歳前後のタイミングの時に帰ってこようかとなるかもしれない。そういうことに力を入れたいなど思っている。

実際市役所に公募してくる人は30歳前後が多いので、おそらく民間企業もそうだろうと思う。

予定した時間もそろそろ終わりですが、皆さんから言い忘れたことはないか。

各委員

特になし。

久保田市長

事務局から何かあるか。

事務局

特になし。

久保田市長

今日色々な意見が出たが、特に前段の教育振興計画については、先ほど出た意見を踏まえながら、今後進めていただけたらと思う。よろしくお願ひしたい。

河上部長

ありがとうございました。

先ほど市長からありました様に、教育振興計画の方では、色々いただいたご意見についてしっかり取組ませていただこうと思う。

魅力化についても、新しい部署を作って今年から取組み始めたということなので、引き続きしっかり取組みたいと思う。

場合によっては2回目があるかもしれないが、一応、令和3年度第1回総合教育会議を終わらせていただこうと思う。

大変ありがとうございました。

終了 15 : 23